【様式１】

概 要 書

研　究　名	ニホンザリガニ 稚ザリ用飼育ボックスの設計・製作
民間機関等（相手方）の名称	大館市（大館郷土博物館）
研究の概要	国内最南端のニホンザリガニの生息地は大館市であり、その一部区域が天然記念物に指定されている。その天然記念物指定水系のニホンザリガニは絶滅に瀕している。大館市ではニホンザリガニ保全のため人工繁殖等に取り組んでいる。当校においては地域貢献の観点から、大館郷土博物館とニホンザリガニに対する共同研究を始めた。 ニホンザリガニの人工繁殖を実施するに当たり、「共食い」行動が問題となる。成体の場合は、仕切り板にて水槽内を分ける等の対策もできるが、ニホンザリガニ稚ザリ（以後、稚ザリ）は仕切り板と水槽の隙間を通ることができ、水槽内の分割は適さない。従って、稚ザリ同士の共食いを避ける飼育ボックスが必須となる。飼育ボックスは市販品として熱帯魚稚魚用の飼育ボックスは販売されているが、稚ザリは壁をよじ登ることができるため、稚ザリ用の飼育ボックスとしては適さない。本設計・製作では、大館郷土博物館と共に稚ザリ専用の飼育ボックスを設計・製作した。 本設計・製作により、天然記念物ニホンザリガニ稚ザリを飼育するボックスを完成させることができた。今までは稚ザリが誕生した場合、専用の飼育ボックスが存在せず、ビーカーなどの代用品での飼育となっていたが、次回からは稚ザリ専用飼育ボックスでの飼育となる。